

# 令和3年度 生涯学習の推進に関する市町村調査 取りまとめ結果 (環境生活政策課実施)

1. 目的 『岐阜県生涯学習振興指針』の最終年度にあたる平成23年度・平成28年度市町村調査と比較し、改定後5年目となる令和3年度の市町村における生涯学習の推進状況を把握する。
2. 対象 ○県内42市町村（回答率 100%）  
○公民館・コミュニティセンター等、県内の生涯学習施設（回答率 81.9%）  
※生涯学習施設の回答率については、「生涯学習施設等調査（令和3年4月実施）」で各市町村から報告された生涯学習施設133施設、「社会教育調査（令和3年7月実施）」で各市町村から報告された公民館270施設に、当調査にご回答いただいた図書館等の生涯学習施設6施設を加えた409施設を母数として算出
3. 時期 ○生涯学習の推進に関する調査（県実施）  
令和3年12月28日～令和4年1月20日  
○生涯学習講座に関する調査（県実施）  
令和3年12月28日～令和4年1月20日

## ※岐阜県生涯学習振興指針について

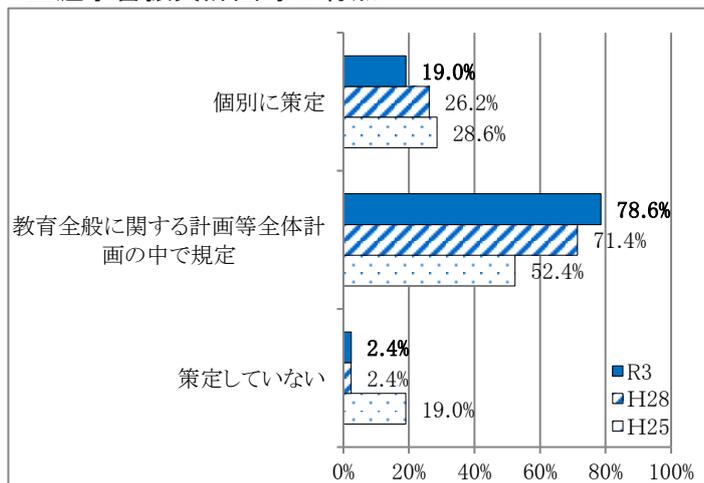
県の生涯学習振興施策の方向性や基本方針を定めたもの。

- ・平成19年3月策定「岐阜県生涯学習振興指針～地域づくり型生涯学習の推進～」
- ・平成24年3月策定「岐阜県生涯学習振興指針～「地域づくり型生涯学習」による地域の「絆」とコミュニティの再構築～」
- ・平成29年3月策定「岐阜県生涯学習振興指針～「地域づくり型生涯学習」の推進による「清流の国ぎふ」づくり～」

- A 生涯学習の推進体制の整備について  
B 生涯学習の推進について  
C 「地域づくり型生涯学習」の推進について  
D 人材の育成・活用について  
E 『岐阜県生涯学習振興指針』に基づいた各種事業について

## A 生涯学習の推進体制の整備について

### 1 生涯学習振興計画等の有無

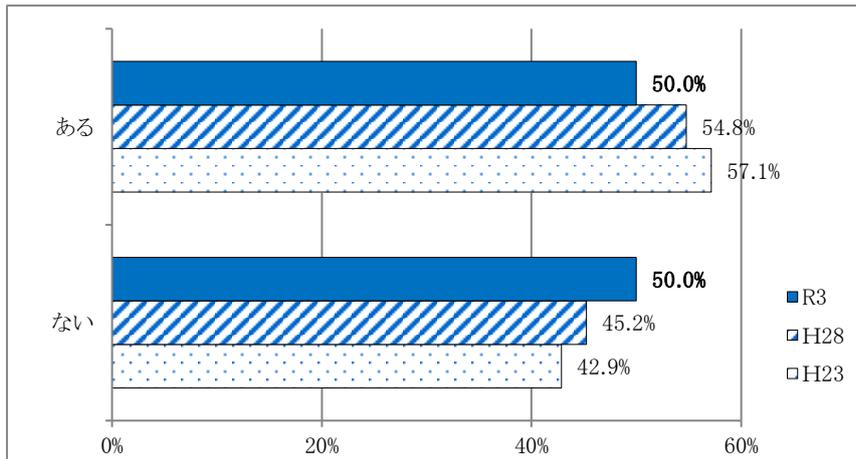


- ほとんどの市町村で、生涯学習振興計画等が策定されている。  
○個別策定ではなく、教育全般に関する計画等で規定している市町村が増加している。

◇生涯学習振興計画等の名称

圏域	市町村名	振興計画等の名称	対象年度
岐阜	岐阜市	第3次岐阜市生涯学習基本計画	H30～R9
	羽島市	羽島市生涯学習都市づくり5カ年計画	R2～R6
	各務原市	第3期各務原市教育振興基本計画	R2～R6
	山県市	やまがた教育ビジョン2020(第2次山県市教育振興基本)	R2～R6
	瑞穂市	瑞穂市教育振興基本計画	R3～R7
	本巣市	本巣市教育振興基本計画	R2～R6
	岐南町	岐南町第6次総合計画	R2～R11
	笠松町	笠松町生涯学習のまちづくり推進構想	R3～R3
	北方町	北方町教育振興基本計画	H29～R6
西濃	大垣市	大垣市第2次教育振興基本計画	R2～R11
	海津市	第2次海津市教育振興基本計画	R1～R5
	養老町	生涯学習の方針と重点	R3～R3
	垂井町	垂井町第2次教育ビジョン(教育振興基本計画)	H30～R4
	関ヶ原町	関ヶ原町教育大綱	R3～R7
	神戸町	神戸町社会教育計画	R3～R3
	輪之内町	輪之内町教育体綱及び輪之内町教育振興基本計画	R2～R6
	安八町	安八町生涯学習計画	R2～R6
	揖斐川町	揖斐川町第2次総合計画、揖斐川町教育大綱	H28～R7
	大野町	大野町教育大綱	R2～R6
	池田町	池田町社会教育計画	R3～R3
中濃	関市	関市教育振興計画(後期計画)	H29～R3
	美濃市	第2次美濃市生涯学習マスタープラン	H25～R4
	郡上市	郡上市教育振興基本計画	R1～R6
	美濃加茂市	美濃加茂市教育振興基本計画(FROM-0歳アクションプラン)	R2～R6
	可児市	なし	—
	坂祝町	第7次総合計画	R3～R12
	富加町	富加町教育計画	R3～R3
	川辺町	川辺町第5次総合計画	H27～R6
	七宗町	七宗町第五次総合計画	H28～R7
	八百津町	八百津町第5次総合計画	H29～R6
	白川町	白川町教育振興計画「教育夢プラン」	R3～R10
	東白川村	東白川村第5次総合計画 後期基本計画	R1～R4
	御嵩町	21世紀御嵩町教育・夢プラン 第4次改訂	R3～R7
東濃	多治見市	第7次多治見市総合計画後期計画	R2～R5
	土岐市	第2次土岐市教育振興基本計画「夢・絆プラン」	R2～R6
	瑞浪市	瑞浪市教育振興基本計画 みずなみ教育プラン 後期	R1～R5
	恵那市	第3次恵那市三学のまち推進計画	R3～R7
	中津川市	中津川市教育振興基本計画	R1～R8
飛騨	高山市	第3期高山市教育振興基本計画	R2～R6
	飛騨市	飛騨市教育振興基本計画	H25～R4
	下呂市	下呂市教育大綱	R1～R3
	白川村	白川村教育大綱	H29～R3

2 地域住民や関係団体の代表者などで構成する生涯学習審議会等の組織の有無  
(社会教育委員の会は除く)



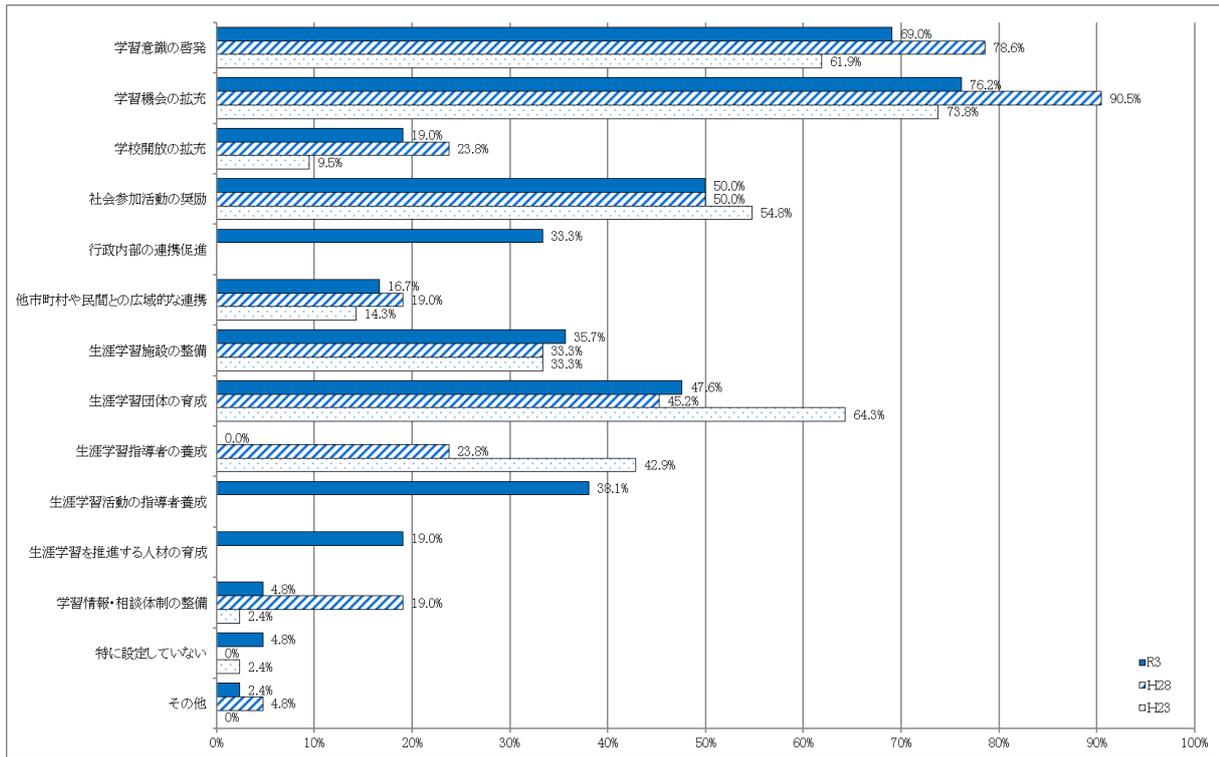
○半数の市町村で、生涯学習審議会等の組織を有している。  
○組織を有する市町村数は、平成23年度から徐々に減少している。

◇地域住民や関係団体の代表者などで構成する生涯学習審議会等の組織の名称

圏域	市町村名	組織の名称
岐阜	岐阜市	岐阜市民生涯学習推進協議会
	羽島市	羽島市生涯学習都市推進会議
	各務原市	各務原市生涯学習推進協議会
	山県市	中央公民館運営審議会
	本巣市	本巣市民文化ホール運営協議会
	笠松町	公民館運営審議会(兼生涯学習推進会議)
西濃	養老町	「親孝行と生涯学習を進めるまち養老」町民会議
	垂井町	垂井町地区まちづくり協議会
	関ヶ原町	歴史講座推進委員会
中濃	関市	関市公民館運営審議会
	美濃市	美濃市公民館運営審議会
	美濃加茂市	美濃加茂市生涯学習審議会
	富加町	公民館運営協議会
	川辺町	川辺町公民館運営審議会
	白川町	公民館活動推進委員会
	御嵩町	御嵩町教育委員会点検評価会議
東濃	土岐市	公民館運営審議会
	恵那市	恵那市三学のまち推進委員会
	中津川市	中津川市公民館運営審議会
飛騨	高山市	高山市生涯学習施設運営審議会
	飛騨市	飛騨市生涯学習推進会議

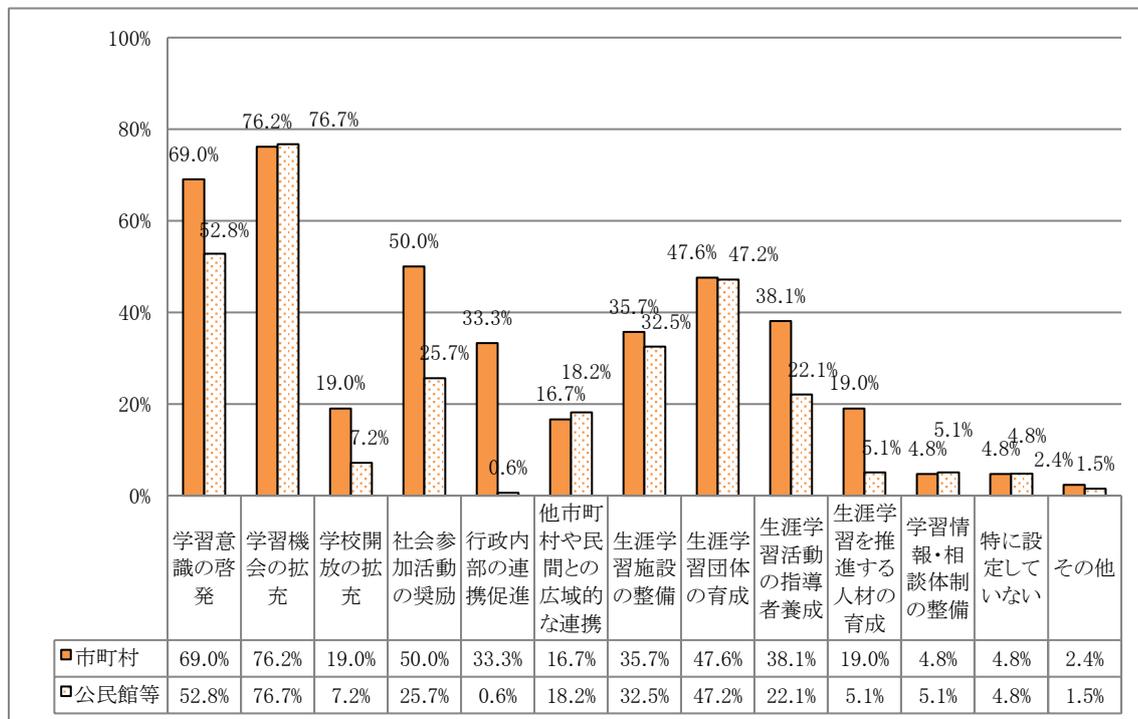
## B 生涯学習の推進について

### 3 生涯学習を推進する上での重点（複数回答）



（※H30年度の調査から、「行政内部の連携促進」を新たな項目として追加。また、「生涯学習指導者の養成」を、「生涯学習活動の指導者養成」と「生涯学習を推進する人材の育成」に区分して調査を実施。）

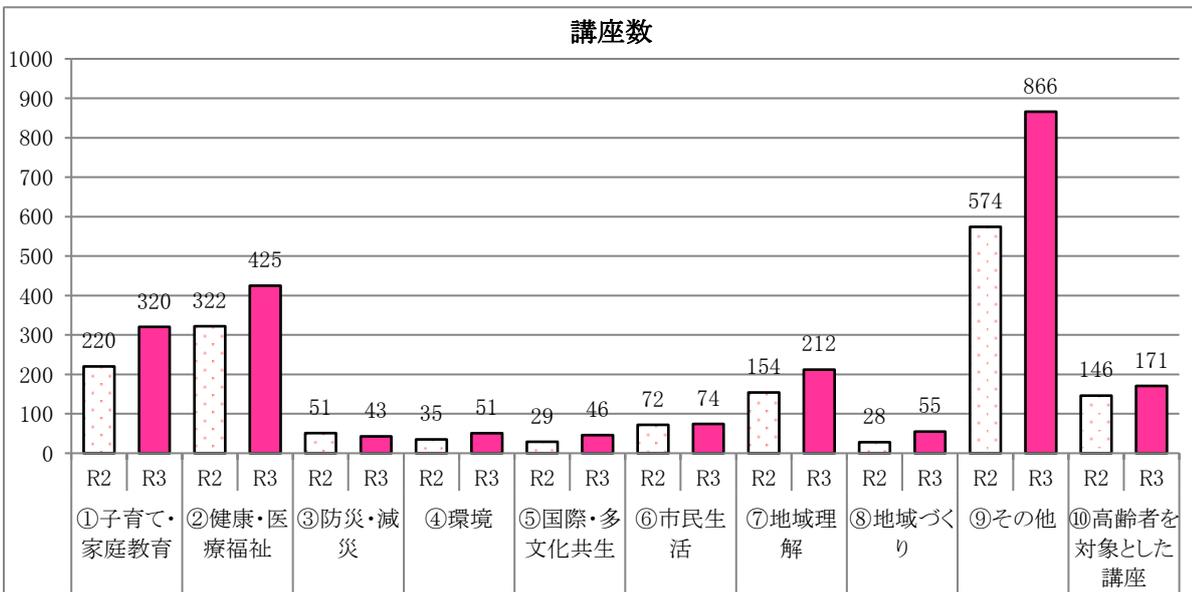
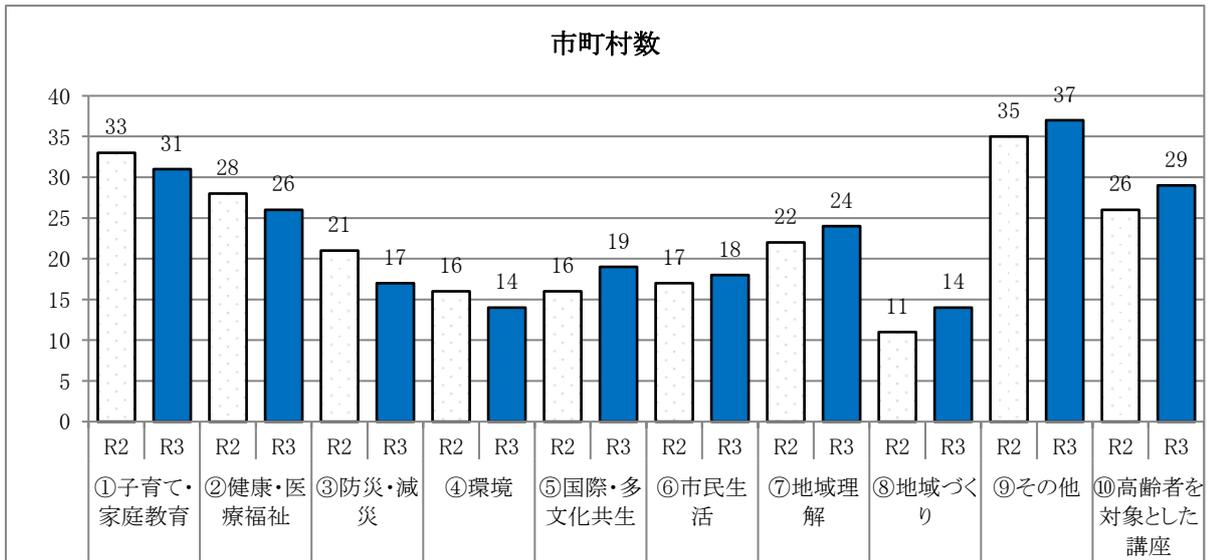
#### <参考>生涯学習を推進する上での重点（市町村、公民館別）（複数回答）



○「学習機会の拡充」、「学習意識の啓発」の割合が高く、生涯学習に取り組むきっかけづくりに重点が置かれている。

○人材育成については、「生涯学習活動の指導者養成」を重視している市町村が多い。

3-1 分野別生涯学習講座の開講状況（「生涯学習講座に関する調査(12月実施)」より）



- ①子育て支援、親子交流、青少年教育・家庭教育など、保護者または親子を対象とした講座
- ②スポーツや食生活、医療など、健康の増進及び維持管理を目的とする講座や生活支援や、高齢者支援など福祉に関する講座
- ③自然災害（地震・風水害など）への対策を内容とする講座
- ④環境問題、省エネ・省資源、リサイクル、ごみ問題、自然環境保全など、環境に関する内容を扱う講座
- ⑤在住外国人との交流、在住外国人の生活支援など、異文化理解及び多文化共生を目的とする講座（語学も含む）
- ⑥政治・経済、消費生活、防犯、交通、人権など、上記①～⑤以外の分野で市民生活に関わる内容を扱う講座
- ⑦地域の自然、歴史、文化・伝統、偉人、産業、郷土料理などを扱い、地域理解を目的とする講座
- ⑧特定の地域課題を設定せずに行う地域づくりに関する講座（※特定の地域課題を設定して行う場合は、上記①～⑥に分類）
- ⑨上記の①～⑧に分類できない趣味・教養に関する講座（公民館等で行われているサークル活動は除く）
- ⑩高齢者を対象とした講座（再掲含む）

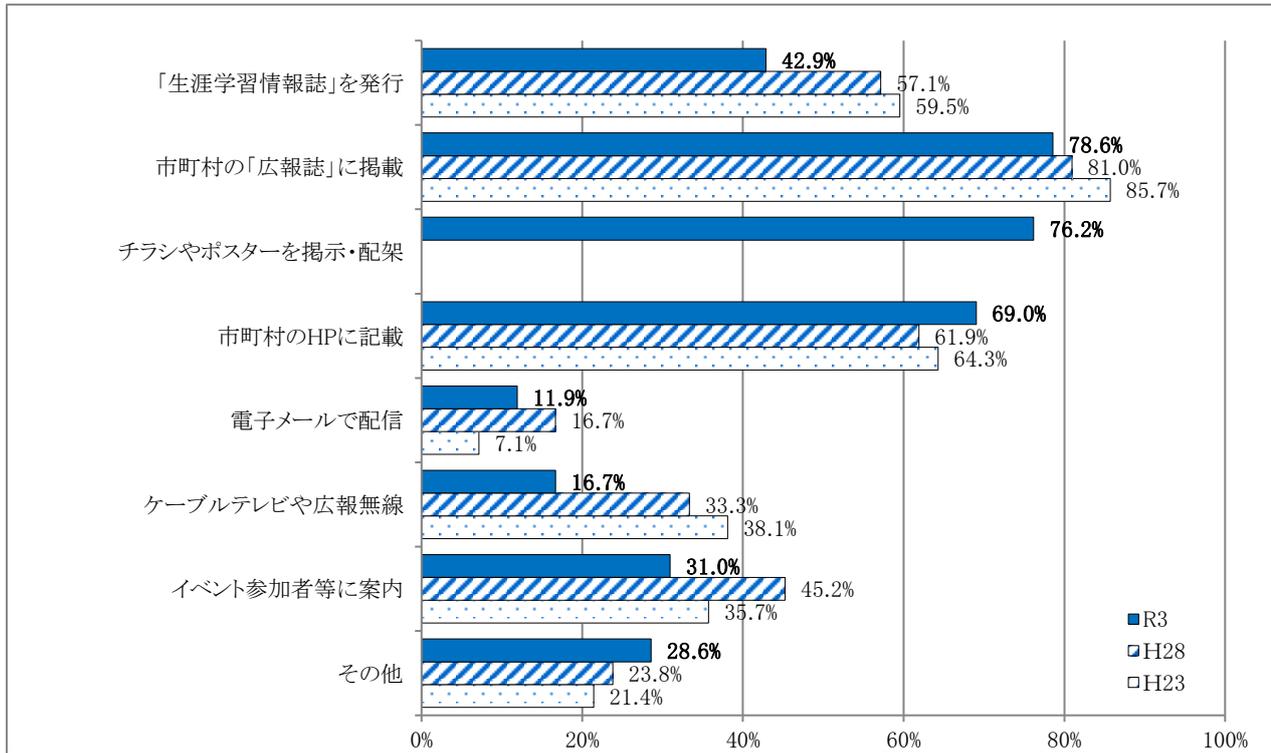
○令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により講座の開設数が減少しているが、令和3年度はYouTubeでの配信等、様々な工夫がなされ、令和2年度を上回る講座が開催されている。

○「②健康・医療福祉」、「①子育て・家庭教育」分野の講座が多く開講されている。

○地域づくりにつながる講座として、「⑦地域理解を深める講座」は24市町村で212講座、「⑧地域づくりに関する講座」は14市町村で55講座開講されている。

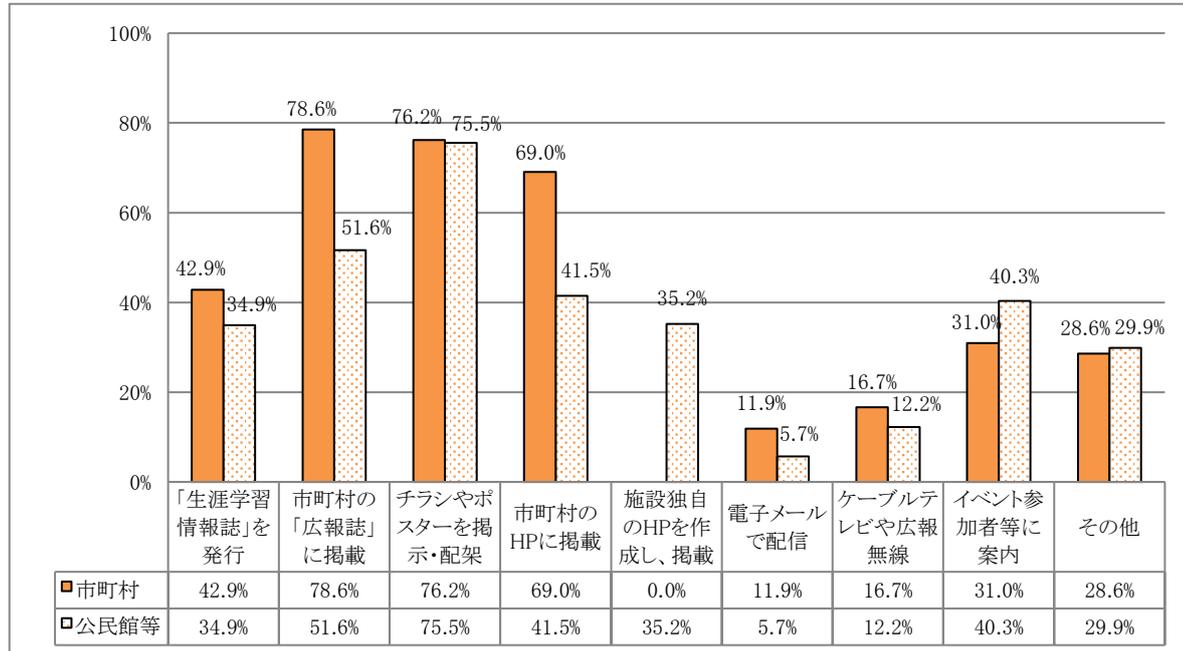
○「⑨その他」には、子どもを対象にした体験型の教室や、スマートフォンの使い方講座等、多種多様な講座がある。

#### 4 生涯学習の講座やイベントの広報手段（複数回答）



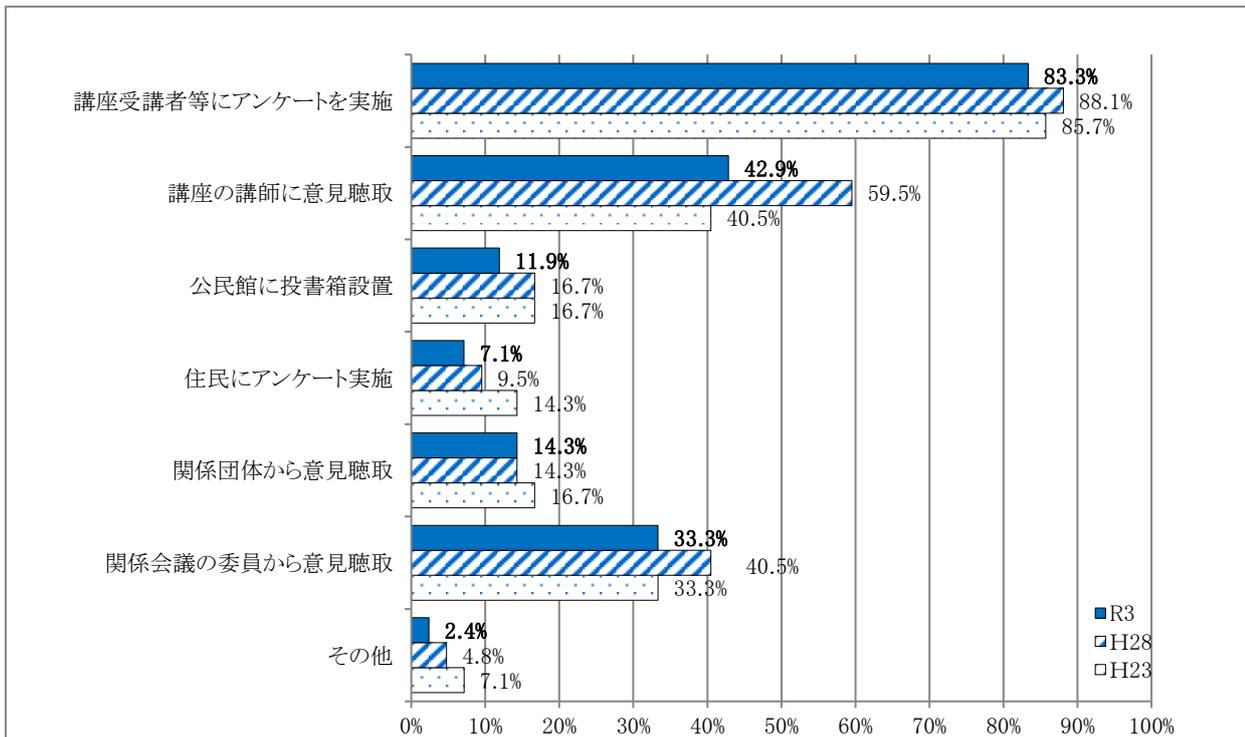
（※H30年度調査から、「チラシやポスターを掲示・配架」を新たな項目として追加。）

#### <参考>生涯学習の講座やイベントの広報手段（市町村、公民館別）R3年度（複数回答）

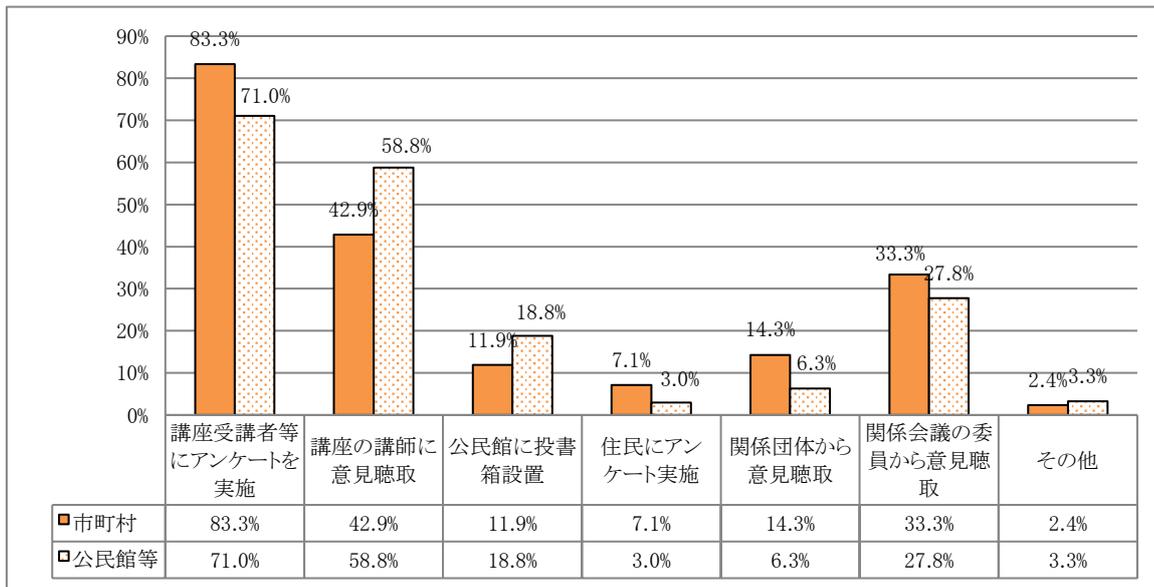


- 「生涯学習情報誌の発行」、「電子メールで配信」、「ケーブルテレビや広報無線」、「イベント参加者等に案内」は減少傾向にある一方、HPへの掲載は増加傾向にある。
- 広報誌への掲載、チラシやポスターの掲示・配付、HPへの掲載といった大量伝達手段が主流となっている。

5 生涯学習関連事業を進めるうえでの住民ニーズの把握方法（複数回答）

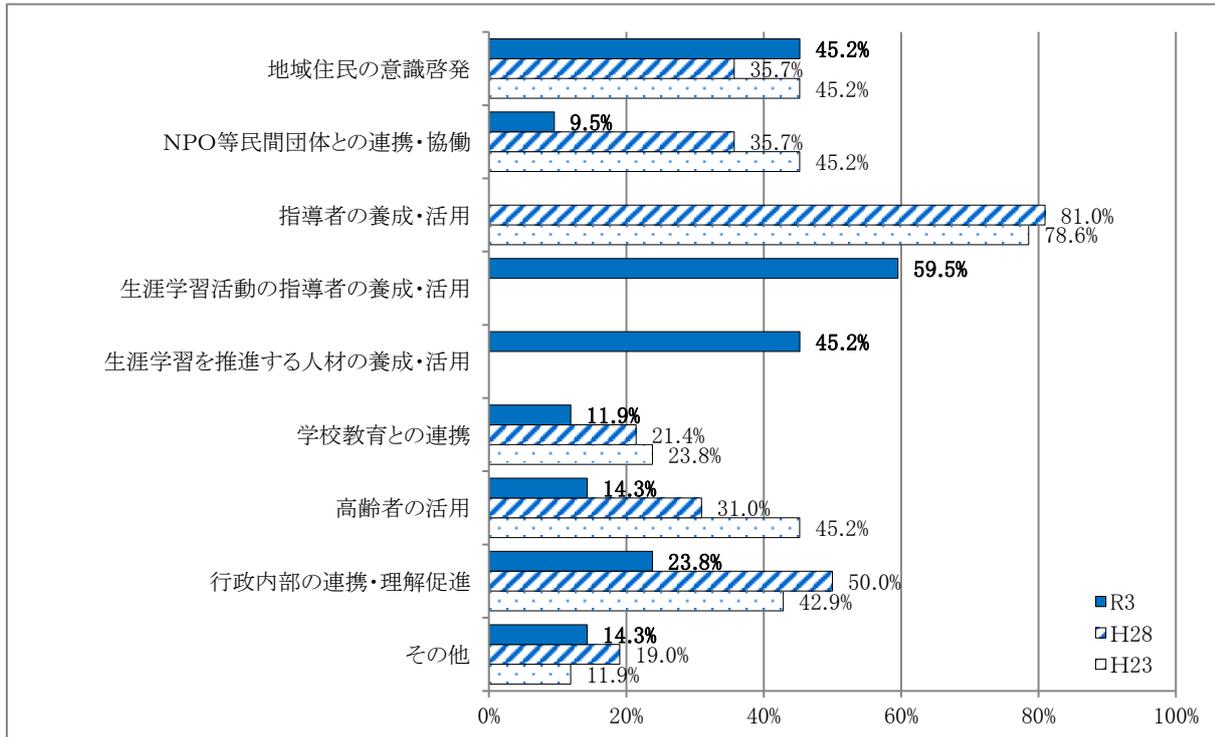


<参考>生涯学習関連事業を進めるうえでの住民ニーズの把握方法（市町村、公民館別）R3年度（複数回答）

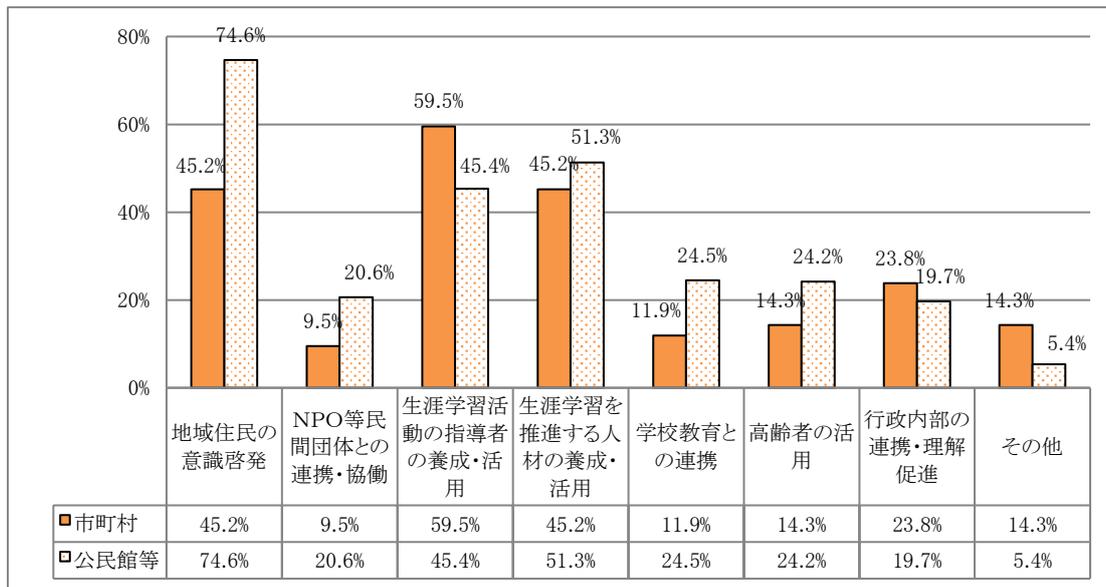


○講座受講者へのアンケートや講師からの意見聴取により住民ニーズを把握する市町村が多い。一方で、公民館の投書箱、住民へのアンケート、関係団体・会議の委員からの意見聴取など、講座参加者以外の幅広い層からの意見聴取の割合は低い。

## 6 生涯学習推進上の課題（複数回答）



### <参考>生涯学習推進上の課題（市町村、公民館別）R3年度（複数回答）



（※H30年度調査から、「指導者の養成・活用」を、「生涯学習活動の指導者養成」と「生涯学習を推進する人材の育成」に区分して調査を実施。）

- 指導者、推進する人材の養成・活用を課題と挙げる市町村が多い。
- 「地域住民の意識啓発」は平成28年度と比べ大幅に増加している。
- 「学校教育との連携」、「高齢者の活用」、「行政内部の連携・理解促進」の割合は、平成28年度から大幅に減少している。

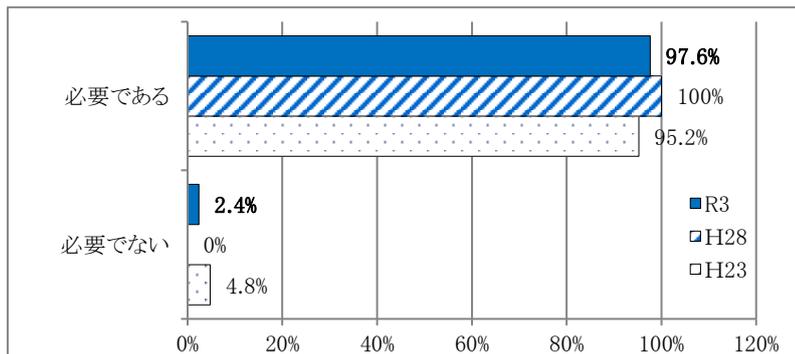
(参考) 生涯学習推進上の具体的課題 (回答より一部抜粋)

	具体的な課題
地域住民の意識啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生涯学習に関心を持つ方には情報が届くが、広く一般の方には興味を持ってもらえない。</li> <li>○コロナ禍による各サークルの活動停滞の長期化、各サークルの構成員の高齢化が懸念される。</li> <li>○個人の趣味・楽しみを目的としたものから、地域課題の解決を目的としたものへの生涯学習に関する住民意識の転換。</li> <li>○講座受講生の固定化。なかなか新規の受講生を集める事ができない。</li> <li>○公民館での学習活動が個の知識の集積にとどまり、地域への絆づくりにつながらない。</li> <li>○地域住民の、公民館と公民館活動についての認識が低い。</li> </ul>
NPO等民間団体との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>○NPO 団体が少ない。</li> <li>○行政と NPO 団体のそれぞれに、生涯学習指導者・生涯学習サークルの情報登録制度はあるが、共有化や相互活用が十分ではない。</li> <li>○どのような民間団体があるのか、どのような連携・協働が可能か把握しきれていない。</li> <li>○非営利な活動かどうか判断が難しい</li> </ul>
生涯学習活動の指導者養成・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新規で講師やまちづくり活動などに参加される人、かつ続けられる人が少ない。</li> <li>○講座の内容によっては対応できる講師が市内にいないため、苦慮している。</li> <li>○生涯学習指導者・生涯学習サークルの情報登録制度はあり、市ホームページや広報誌などで広く情報公開しているが、十分に活用されているとは言えない。</li> <li>○指導者が高齢化していく中で、後継者・なり手不足が深刻。</li> <li>○市民講師の登録者は年々増えているが、その活動の場が十分でない。</li> <li>○指導者・推進する人材の活用はしているが、養成までには至っていない。</li> <li>○指導者・受講者共に高齢になり行事が成り立たなくなっている。</li> <li>○新しい講座の講師を頼むがなかなか探せない(指導となると消極的になる)</li> </ul>
生涯学習を推進する人材の養成・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生涯学習の学びによって、地域づくり、まちづくりへと人材が広がっていくような人材の養成等を行っているが、その成果が見えにくい。</li> <li>○コーディネーター等、推進する人材のなり手不足</li> <li>○推進する人材の発掘や養成の方法</li> <li>○生涯学習分野に長けた職員の育成が進んでいない。</li> <li>○公民館活動を企画・運営する専門部会は任期のある委員で構成されており、主体的に関わろうとする方が少ない。</li> </ul>
学校教育との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民が学校に学習支援などに入る機会がまだまだ少ない。</li> <li>○地域学校協働活動推進員らと連携し、地域人材を積極的に活用していくことが必要である。</li> <li>○地域学校協働活動への取り組み方が課題(おおむね各校区単位で設置されている「地域委員会」の活動には組み込んでいる)。</li> <li>○コロナ感染予防拡大の観点から色々制限があり、各団体、学校等との連携が難しくなっている。</li> <li>○コロナ禍が2年近く続いているため、せっかく育ってきた子供たちの郷土愛や地域交流の意識が次第に低下してきているように思える。</li> <li>○生徒の地域活動への参加・連携を生涯学習テーマとしたいが、具体的な企画が策定できない。</li> <li>○校区が広いため、連携にかなりの工夫が必要</li> </ul>
高齢者の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域やまちづくりにおいて、意欲のある高齢者をうまく活用できていない。</li> <li>○ボランティア講師としての活用を考えているが、情報入手・人材発掘が困難である。</li> <li>○働く年齢層が上がっている現状があり、時間の余裕が無いように思われる。</li> <li>○知識も技術もあるが、体力低下や、会場までの交通手段の制約などの課題。</li> <li>○コロナ禍によって、高齢者が活動を控えている。</li> </ul>

<p>行政内部の連携・理解促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行政職員が講師として赴く「市出前講座」を実施しているが、内容が固定的となっており、市民ニーズをとらえた講座を提供できるよう、理解を促進する必要がある。</li> <li>○他部署や関係機関との情報共有・調整が十分とは言えない。</li> <li>○職員数の減少や意識の低下等により、内部の連携や理解が進んでいない。また、文化講演会などの生涯学習事業への職員の参加が少なくなっている。</li> <li>○行政内部での生涯学習推進の必要性や公民館の地域づくりへの関わりについて理解が進まない。</li> </ul>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○障がい者等、多様なニーズを必要とする人々への生涯学習の提供について、ニーズの把握を含め、事業を進められていない。</li> <li>○施設、設備、人員が不足している。</li> <li>○メンバーの高齢化とコロナ禍が続く状況も重なり、クラブ・サークル活動が縮小していること。</li> <li>○地域住民の共同意識に希薄化による地域力の低下。</li> <li>○公民館活動の中核となっている帰属団体構成員の世代交代が進まず、高齢化・固定化している。</li> <li>○長期にわたる感染症対策によるサークルの休止や地域行事の中止による従来の共同体または新しい共同体の構築が急務。</li> <li>○親子で参加できる講座や子供たちが参加できる講座等も工夫し開催しているが、継続した利用に繋がっていない。</li> <li>○世代間交流にも繋がる人材を多く見つけることができれば課題の解決に少し近づくと思う。</li> </ul>

## C 「地域づくり型生涯学習」の推進について

### 7 「地域づくり型生涯学習」の推進を意識した取組の必要性



○41の市町村が「必要である」と回答している。  
 ○1市町村が「必要でない」と回答している。(理由:「現状必要性を感じていないため」)

(備考1)「必要である」と考える主な理由(回答より一部抜粋)

#### <少子高齢化、担い手不足>

- 今後少子化が進み、将来、社会の中核となる人材が減っていくことが懸念されるので、特に子どもたちに対しての活動は、活発で住みやすい地域社会の創造につながると思う。
- 今後、高齢化が進み、担い手が不足し、様々な地域課題が発生することが予測される中、住民自らの手で課題解決に向かう意識が必要であると考えたため。
- 様々な世代が地域と関わりを持つことが地域への帰属性を生むことにつながるから。

#### <地域のつながり、地域への愛着>

- 老人の孤独死問題など、個人と社会の繋がりの希薄化や自治会活動の小規模化の傾向の中、旧来と異なる形での地域における人との結びつきが必要と感じる。
- 住宅が増え新しい住民が増え、地域のつながりが薄くなっているため。
- 知識や技術の習得とともに、地域での仲間づくり、顔の見える地域づくりの意味合いもあるため。
- 地域の歴史や身近な人から体験を通してより深い理解と郷土愛を得る機会として重要であり、文化、歴史の継続、継承のため地域に根ざした学習活動は不可欠である。
- 地域ぐるみで生涯学習を進める事により、交流が深まり災害時の共助につながる。

#### <地域の活性化>

- 講座の中で得た力を生かすことを生きがいに行っている方々もあり、それが地域の活性化にも不可欠である。
- 自分の学びの成果を地域社会に還元することは、地域の繋がりづくりや世代間交流の活性化に効果的であるほか、行政では手の行き届かないサービスの提供にも寄与するから。
- 地区センターを拠点とした住民自身による地域振興が必要であるため。

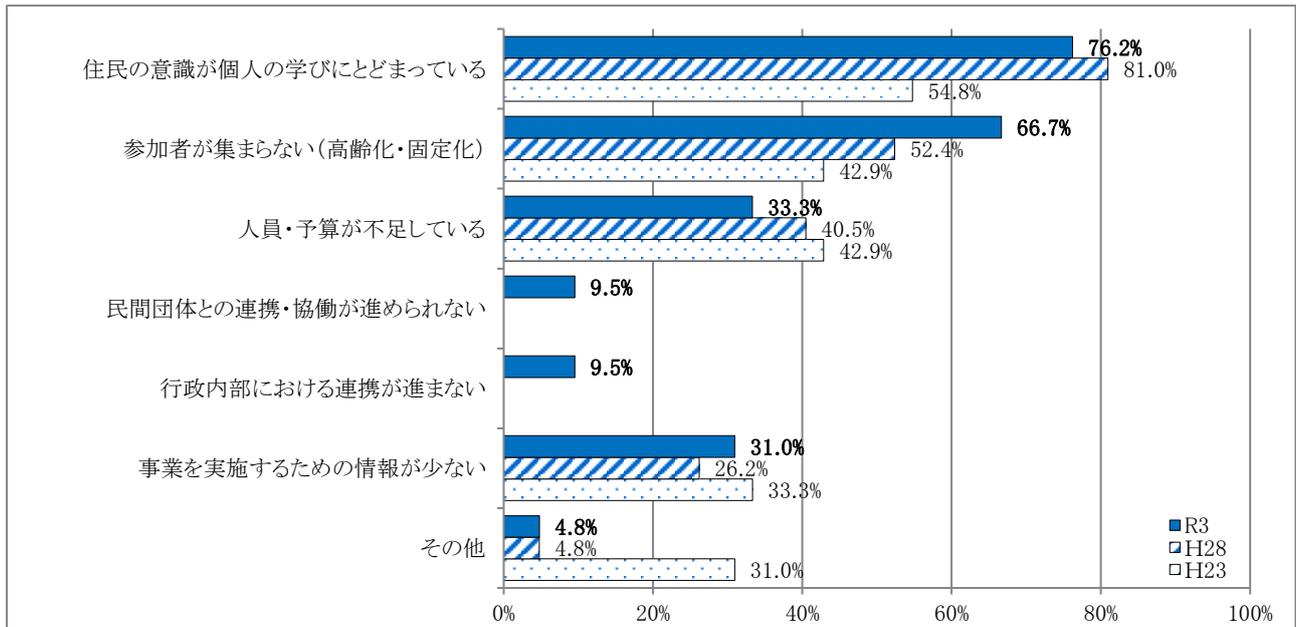
#### <人材育成・人材活用>

- 地域に必要なことや問題点は、地域の方が知っているため、地域の人材活用ができれば問題解決への近道になる。
- 講座受講生の中から次の指導者の候補が見つけられるため、人材の確保、把握ができる。

#### <公民館活動>

- 公民館活動は、社会教育だけではなく地域・学校等をまきこんだ幅広い活動が必要だと思う。
- 住民が地域でより豊かに充実した暮らしを営むには、暮らしにかかわる課題の解決を行政や他人任せにするのではなく、自ら課題に気づき、仲間と共有し、学びや活動を通して解決していくことが必要と考える。こうした気づきのきっかけや学びの構築、活動のコーディネートをしてのが公民館の役割と思う。

## 8 「地域づくり型生涯学習」を進める上での問題点や課題（複数回答）



※H23年度・平成28年度の調査では、「民間団体との連携・協働」、「行政内部の理解・協力」を課題として選択肢にあげていないため、グラフに反映されていない。

○「住民の意識が個人の学びにとどまっている」の割合は変わらず高い。また、「参加者が集まらない（高齢化・固定化）」の割合が大きく上昇しており、若い世代や新たな参加者を惹きつける必要があると考える市町村が多い。

○約3割の市町村が、「人員・予算が不足している」、「事業を実施するための情報が少ない」と回答している。

### ●その他の課題・意見

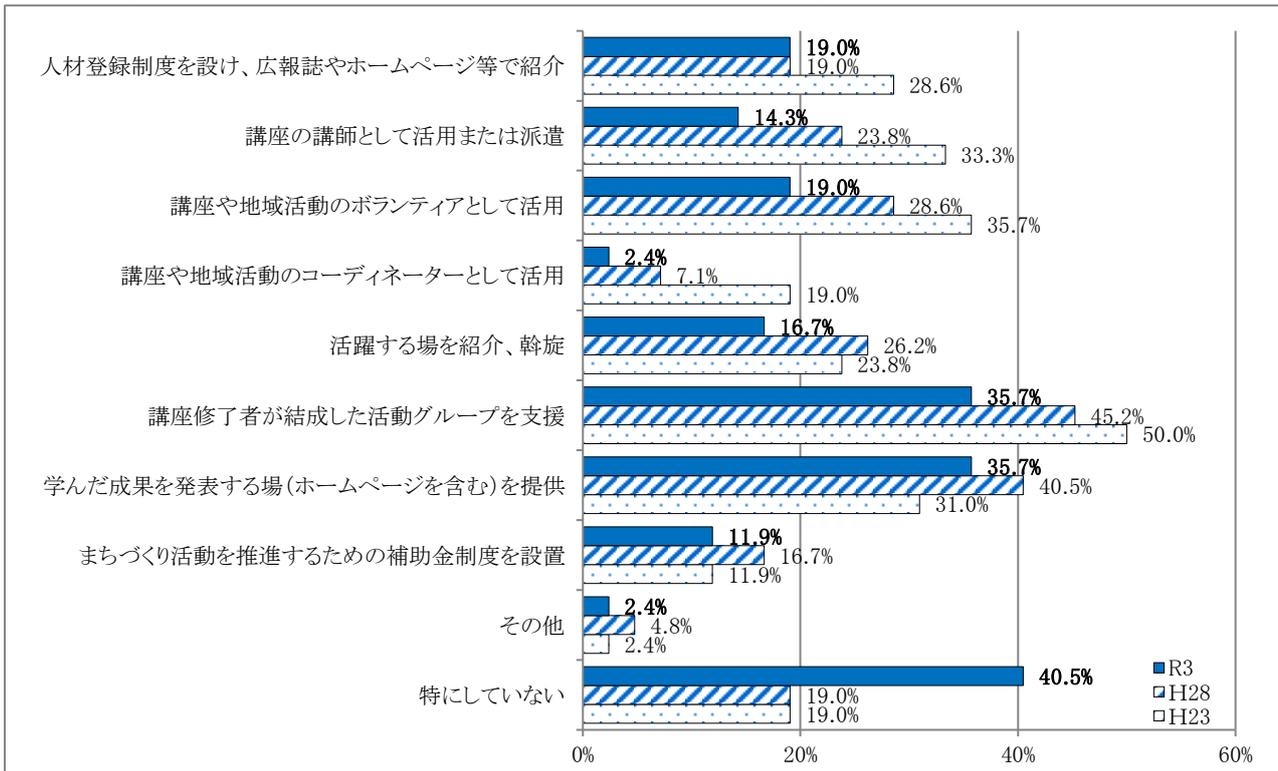
- ・新型コロナウイルスの影響により、企画を進めることが難しい。（規模の縮小）
- ・人員については単に人数が増えれば良いという訳ではなく、主体的に活動を推進出来る人がメンバーである必要がある。
- ・地域づくり型生涯学習を企画しても、市民の方に身近な内容でなければ参加は少ない。（講座の目的と参加者の参加目的があわなければ、参加率はあがらない）
- ・これから地域を担っていく50代以下の世代は働き方も様変わりをした世代で、公民館にわざわざ足を運ばない。一番来て欲しい世代にどのようにアプローチすべきなのかエビデンスに基づく助言が欲しい。
- ・参加者が“お客様”化していて、自らが動いて実践することがない。受け身的な傾向にある。
- ・何をもって「地域づくり型生涯学習」とするかをイメージするには、他の公民館における具体的な事例やそれに携わる各公民館の（現場）職員の意見・情報交換の機会がない。

## 9 生涯学習講座で学んだ市民が、その成果を実際に地域づくりに生かした事例

- 「講師養成講座」、「フォローアップ講座」を通し、生涯学習活動の人材育成を行い、講座終了後、講師情報を市内施設に提供し、地域での活動を進めた。
- 生涯学習講座受講者の有志でクラブ・サークルやボランティア団体を立ち上げ、講師として活躍されている。(木工やパソコンサークル等が夏休みこども講座の講師として指導、音楽系サークルが福祉施設等を慰問し、合唱や演奏を行う)
- 図書に関心のある市民が、読み聞かせサポーター養成講座で学び、その後学校や図書館などで読み聞かせの会を開催するなど。
- 史跡講座を終了した受講生が、史跡ガイドとして、観光客や、修学旅行の児童・生徒を案内している。
- 青少年ふるさと歴史ガイドを受講している小学4-中学2年生までの児童生徒が、町のイベントでガイドを行ったり、外国人観光客へ英語でガイドしたりしている。
- 「生涯学習コーディネーター養成講座」を受講した方がコーディネーターとなり、親子向けの植物観察講座を企画・運営した。
- 乳幼児期家庭教育学級の卒業生の母親グループが、地域の中で「女子会」を結成し、様々なまちづくり活動に積極的に参画することで地域からも期待されている。また活動の拠点となるコミュニティセンターの主事が、コーディネーター的な役割をうまく果たしている。
- 市民が講師となって講座を企画する「市民自主講座」で「成年後見制度」をテーマに講師を続け、学びあった仲間と共に相談や啓発活動をしている。
- クラブ・サークルの方が講師となり、夏休みに地元小学生に対して茶道・華道・料理などの体験講座(子ども講座)を開催。
- 歴史・文化団体が学校等で出前授業を行っている。
- 公民館講座で剪定を学び、学校や地域でボランティアとして活躍している。
- SDGsを学んだ方が、地域の学校で土曜日授業等の講師として教えている。
- 「子育て支援ボランティア講座」では、毎年修了者に、子育て支援事業に協力してもらう「子育てサポーター」として登録してもらっている。
- 主婦の方が独学で学んだ趣味をいかしてもらえるように公民館でフォローしながら生涯学習講座の講師として活動していただき、講座終了後はサークルを立ち上げ地域の方への指導を続けている。
- 料理とボランティアに興味のある方で結成した館独自の「ふるさと料理実行委員会」が、他機関で学んだ知識を、館の講座で企画し活躍している。
- 公民館講座「ラジオ体操」の参加者が、公認講師の資格を取得し、その後地域や公民館でラジオ体操を指導する指導者となった。
- 公民館自主講座で学んだ住民が講座終了後、継続して学ぶために社会教育団体を作り公民館で活動し、公民館での発表会などで成果を発表している。また、町のイベントなどでも学びを生かした参加を積極的に行っている。
- 地域の歴史講座を開催し、その参加者を中心に「観光ボランティアの会」を立ち上げ、市を訪れる観光客へのガイドを実施している。
- 小さな子供たちと太鼓をたたいて地域を盛り上げようと集まった人たちからできた自主活動グループが、和太鼓集団として小学生の和太鼓授業の指導者として又公民館講座の指導者として活躍している。
- 地域づくり養成講座で学び、地域活性化のために地域の団体と連携し、花壇整備や季節に応じて駅前にイルミネーションや竹あかり等の設置活動を行い、町を元気にする活動をすすめている。

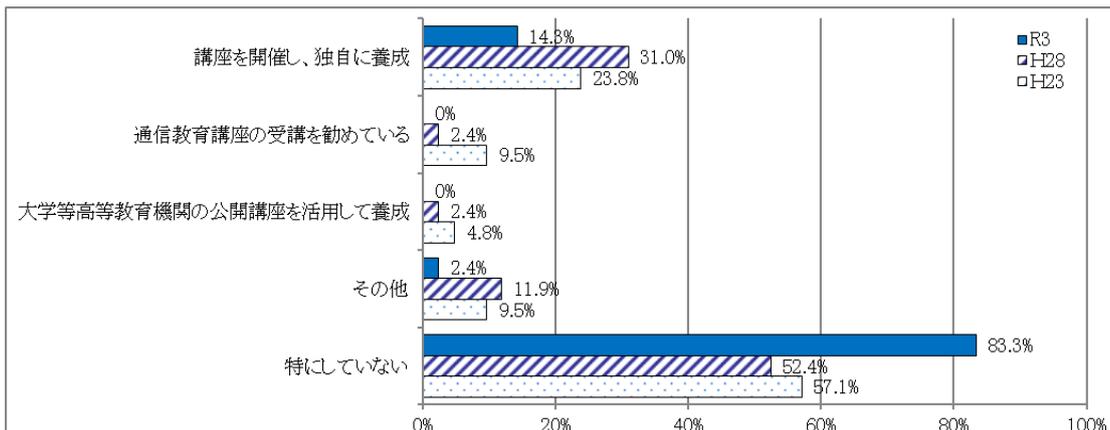
## D 人材の育成・活用について

### 10 生涯学習講座の修了者に対する取組（フォローアップ）（複数回答）



- 「講座修了者が結成した活動グループを支援」、「学んだ成果を発表する場（ホームページを含む）を提供」の割合が高くなっている。
- 「特にしていない」と回答した市町村が40.5%と大幅に増加している。

### 11 生涯学習を推進する人材の養成について（複数回答）

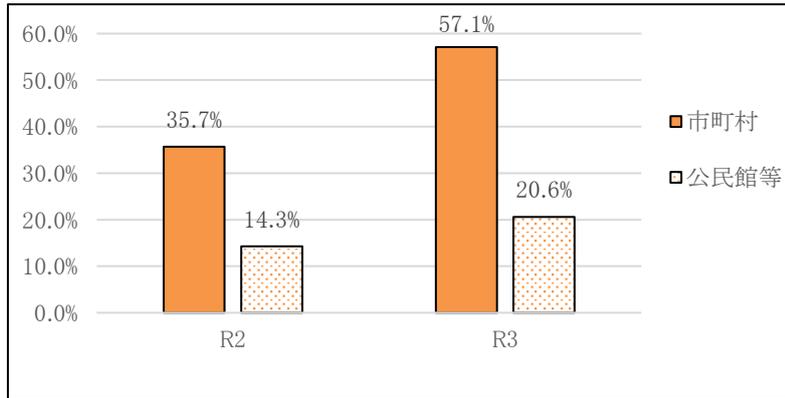


- 「特にしていない」と回答した市町村が大幅に増加している。
- 「講座を開催し、独自に養成」が14.3%と、「生涯学習コーディネーター」や「子育てマイスター」を独自に養成（ポイントや修了証の交付もあり）している市町村もある。

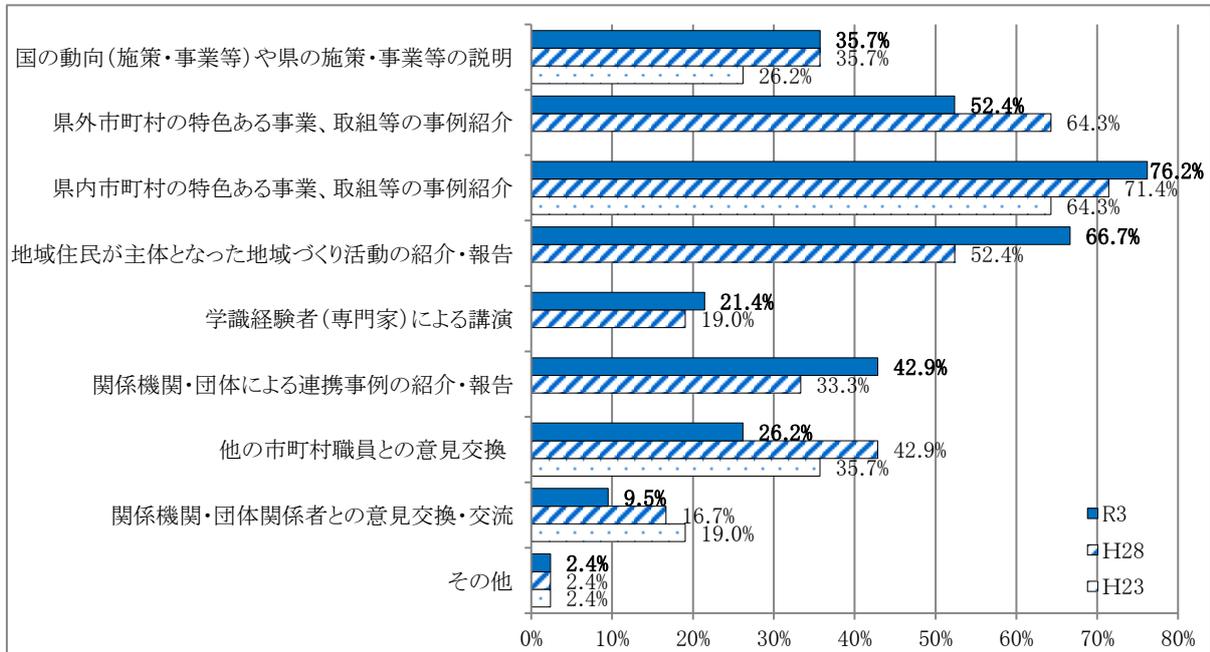
## E 『岐阜県生涯学習振興指針』に基づいた各種事業について

### 1 2 - 1 「岐阜県生涯学習・社会教育総合推進研修会」について

#### (1) 研修会に参加した割合（市町村、公民館別）



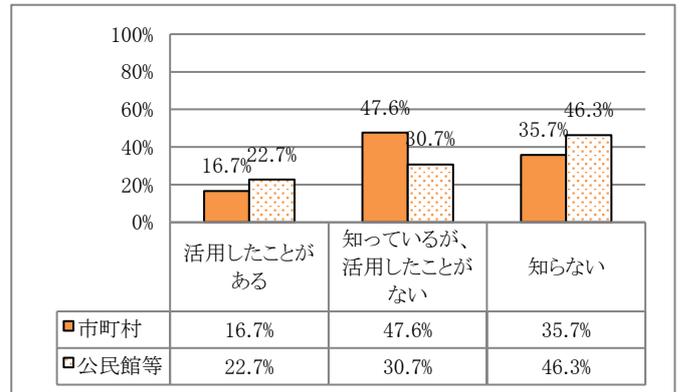
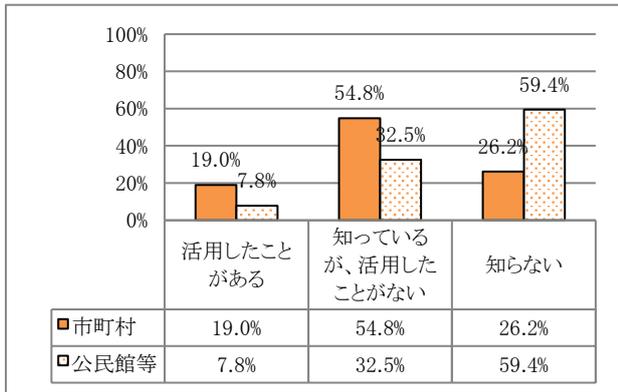
#### (2) 会議に望むこと（複数回答）



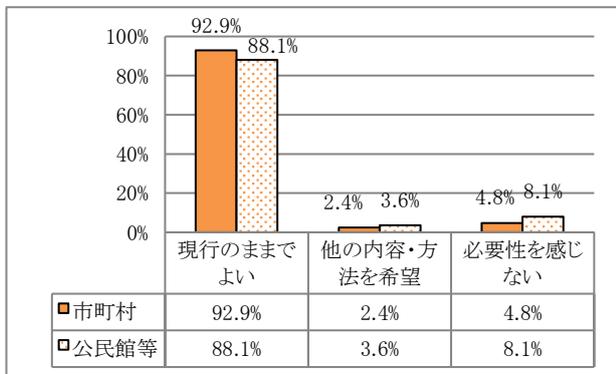
※H23年度は「県外市町村の特色ある事業、取り組みの事例紹介」「地域住民が主体となった地域づくり活動の紹介・報告」「関係機関・団体による連携事例の紹介・報告」「学識経験者(専門家)による講演」の数値なし。

- 市町村担当職員、公民館等職員とも参加率が上昇した。オンライン開催としたことが影響していると思われる。
- 国や県内外の事例紹介を希望する市町村が非常に多い。
- 「関係機関・団体による連携事例の紹介・報告」は平成28年と比べ上昇している一方で、他の市町村職員や関係機関・団体との意見交換・交流は、平成28年度から減少している。

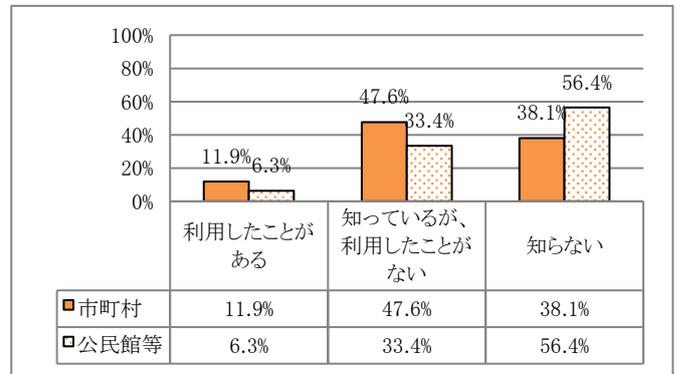
12-2 「地域づくり型生涯学習講座コーディネート事業」 12-3 「生涯学習情報提供」について



12-4 「GIFU生涯学習メールマガジン」について



12-5 「生涯学習相談窓口」について



○各事業において、公民館等の「知らない」の割合が高い。

<事業別>

12-2「地域づくり型生涯学習講座コーディネート事業」について

- 「活用したことがある」が市町村で19.0%、公民館等で7.8%にとどまっている。
- 「活用したことがない」理由
  - ・別の方法で対応しているため。
  - ・独自で計画しているため。
  - ・地域住民から要望がないため。
  - ・目的にあうものがない。

12-3「生涯学習情報提供」について

- 約7割の公民館等が「知っているが、活用したことがない」、「知らない」と回答している。
- 「活用したことがない」理由
  - ・既存講師の活用で充足しているため。
  - ・独自の情報提供体制があるため。
  - ・地元の講師を優先しているため。
  - ・地域の実情にあっていない。

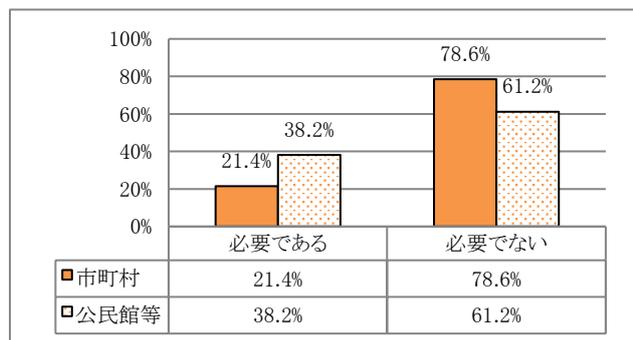
12-4「GIFU生涯学習メールマガジン」について

- 市町村、公民館等の約9割が「現行のままでよい」と回答している。

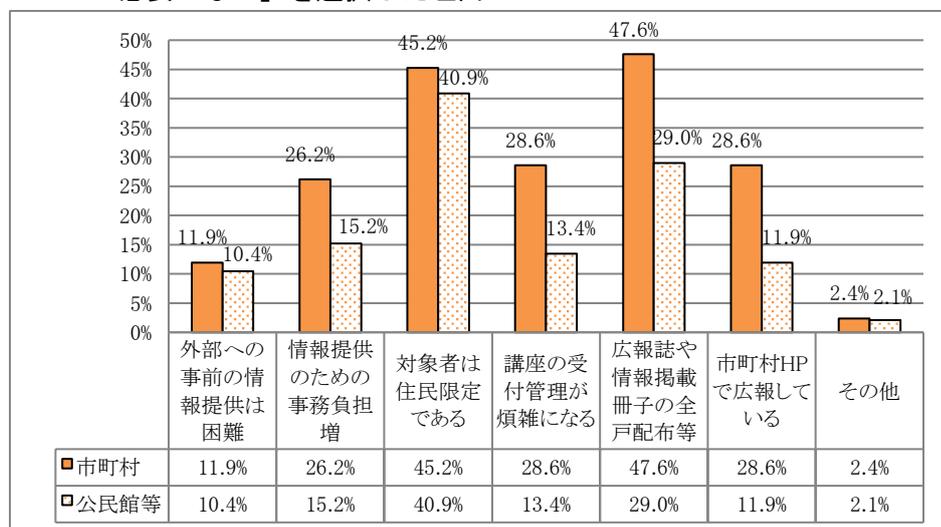
12-5「生涯学習相談窓口」について

- 全体の半数を超える公民館等が「知らない」と回答している。
- 「知っているが利用したことがない」理由
  - ・市町村にも同様の相談窓口があるため。
  - ・市町村の担当課に相談しているため。
  - ・活用する機会がないため。
  - ・職員間での相談で解決しているため。

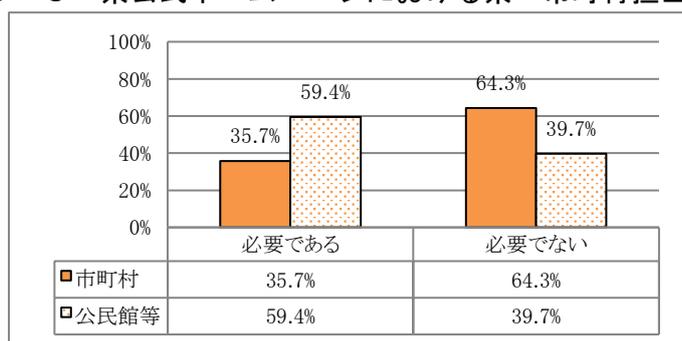
### 13-1 県公式ホームページ内への各市町村主催の講座情報の掲載



### 13-2 「必要でない」を選択した理由



### 13-3 県公式ホームページにおける県・市町村担当者同士が交流できる機能（掲示板）



○県ホームページによる市町村主催の講座情報の掲載については、対象者が市町村住民限定であることや、情報掲載冊子の全戸配布を行っていること等を理由に、掲載を希望しない市町村が約8割となっている。

○県ホームページにおける県、市町村担当者同士が交流できる機能については、公民館等の約6割が「必要である」と回答している。

## 1.4 その他、生涯学習の推進に関する意見・要望等

### <市町村への支援について>

- 学校の余裕教室等の施設を活用した生涯学習の推進についての国・県からの補助や、実際に学校施設を活用して生涯学習を推進している自治体の情報を提供いただきたい。
- 生涯学習施設の運営がおおむね指定管理者に移管された現状を踏まえ、指定管理者が蓄積したノウハウを推進事業に活かすことは必須である。県・市町村担当者のみならず施設の指定管理者にも参画してもらう仕組みを構築して頂きたい。
- 地域学校協働活動推進をめざして、生涯学習施設と学校や行政等の連携ができるよう関係機関等に強く働きかけを行ってほしい。
- 先進地情報などを頼りにしている。県からの最新の情報提供があり、助かっている。
- 東濃地域は岐阜から遠いので、ZOOMなどリモート機能をどんどん活用する形で学習機会が増えることを希望する。まずは職員の意識向上、技術向上となる研修会を開催していただきたい。
- 生涯学習推進のためには、担当者に経験も含めた資質が求められるが、現在、市町村の異動サイクルはこれらの経験を重ねるには短い傾向にある。そうした現状を補うために、関係者の資質向上のための研修の開催、事業展開に助言ができる仕組みづくり、関係職員の資質向上や経験を積むための異動サイクルの再考などの市町村への働きかけをご検討願いたい。

### <講座の開催について>

- 無料で講師が来てもらえる講座はありがたい。
- 流行りのツール(ドローン)やゲーム(モルック)を取り上げたり、お年寄りの困りごと(スマホの使い方)対応してきた。公民館講座の枠にこだわるつもりはないが、この地域の人が寄ってきてくれるのは何かで悩む。
- 個人的に参加して感じたことは、一流の人たちに指導を受けられる嬉しさが次への参加の活力になる。

### <人材育成について>

- 趣味も高じれば講師となれる。生涯学習を推進する関係者一人ひとりが自分の趣味を生かしてその講師となれば、大きな広がりとなると思う。

### <公民館活動への支援について>

- コロナ禍において、公民館活動が停滞している。人と人をつなぐ公民館が、人とできるだけ会わないように制限されている。オンライン講座なども活用や、感染対策をして、少人数でも行事や講座をしていきたい。特に、孤立している方が多いので、誰でもいつでも立ち寄れる公民館にしていきたい。
- 公民館という名前が古く、ピンとこないのかもしれない。地域のつながりが疎遠になっている現状を踏まえ、公民館の役割の重要性を感じている。
- 人と人がつながっていくためにはきっかけが必要だが、与えられるものではなく自ら得るものだと思う。きっかけは公民館などの場にあることを広くPRしていきたい。
- 県の生涯学習に関わる業務に何をされているのか、末端の公民館には勉強不足でよく理解していない。向かうべき方向性や指示は市の生涯学習課よりレクチャーを受けるが、県の役割や業務内容はよく解らない。現場にもっと足を運び生の声を聴いたほうが良いと思う。
- 他の自治体で参考にできるものがあるか知りたい。各自治体によって人口、高齢化等が異なるため、自身のいる地区の状況に似た自治体の活動を知ることができれば大変ありがたい。そのためにも、各公民館同士の情報交換が気軽にできればと思う。
- 公民館で行う生涯学習と指定管理団体(まちづくり協議会)の行う地域活性化の事業は区別しにくく、区別する必要性を感じない。双方の利点を取り入れることで、また新たな取り組みを行うことができると感じている。まちづくり協議会の行う地域づくり事業を生涯学習の一環として行政に理解と支援を頂きたい。
- 地域の公民館にあっては、公民館による役立つ講座の開催ばかりを重視するだけでなく、地域の人や活動に目を配って(掘り起こし)、公民館講座の受講生でなくとも、公民館が関係する活動でなくとも、人と人、人と活動、活動と活動などの結び付きをコーディネートしていくことも、またそうした資質をもった公民館職員を育てることも大切な視点に加えるべきと思う。